

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

準決勝

平成 14 年 8 月 19 日

会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

ゲーム

17

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \\ 2 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	埼玉栄高校			学法津田学園高校
	4			1
天候:	曇り			審判1: 榎橋 邦広
				審判2: 榎本 隆

戦評

台風13号の動向を見ながら日程変更を余儀なくされた今大会も3日目を迎え、ベスト4が出そろった。本年度の高校チャンピオンを目指し準決勝が行われる

埼玉栄高校は、「人間是宝」を校訓とし創立され30年ほどになる私学校。スポーツをとおしでの人間教育にも力を入れほとんどの部活動が全国レベルである。学法津田学園高校も「自由・自主・自立」を教育目標に、文武両道、スポーツ活動にも意識が高い。野球部は春の甲子園2回出場している。両校とも「ここまで来たら絶対優勝!」と意気込みを表している。

序盤はお互い様子をうかがいながらの立ち上がり、栄はフローターケアのギャップを上手く使ったディフェンスからカウンター、セットオフェンスはもちろん今大会絶好調の小山内中心。津田はやはりフローターにボールを入れさせない下がり目の守りからトップがカウンター、セットになるとフローター中心というよりもFWが自由なインスピレーションのもと個人技で突破しチャンスメイクするといった感じ。栄は下がり目のディフェンスに対しパス回しからミドルシュートを狙うが、津田GK林の好セーブに阻まれる。津田は積極的にドライブを仕掛けながら中で勝負しようとするが、アシストパスに対応して栄ディフェンス陣がすぐさま殺到しチャンスを潰す。そんな展開が2pの終盤まで続く。この間にお互いパワープレーチャンスがあるものの、集中したディフェンスにゴールを割ることができない。得点が動いたのは2'01"カウンターの流れで退水が出て、津田のパワープレートップから菅野がスピードのあるミドルシュートを決めまず先制。栄もすぐさま下がり目のディフェンスに右45度からハンズアップの手の外側を上手く抜いて鈴木がミドルをコーナーに突き刺す。3pは栄のリズムがかみ合う。俄然カウンターのスピードが上がりディフェンスの集中を萎えさせたところで、細川のミドルシュートが決まり1点リード、だんだん栄のミドルシュートがいいところに行き始めると、津田のディフェンスが上がり気味になり小山内が空き、2'01"には得意のポジションでフロートからクイックなシュートを決め2点のリードをもぎ取った。津田はこれ以上離されると追いつけないと、積極的なドライブで栄ディフェンスを中に押し込んだところでミドルシュートを放つが、栄GK小島が好セービングを見せる。実は、津田の監督館先生は大事なインターハイ前に体調を崩し1ヶ月の入院を強いられ、練習や東海ブロック大会についていてやれなかった。試合前にこのことを不安がっていたが、津田の選手達に焦りが見える。栄ペースが続き最終pに入り刻々と時間がなくなる。栄は4'15"に退水を奪うところが勝負所と2回目のTOを取得、津田もこの退水ゾーンを守り切らねばチャンスが失せると高いハンズアップを見せるが、正確なパスでゾーンを崩され、栄の大宮が左サイドから貴重な追加点をあげた。津田は菅野のセンスある動きからのシュートで応戦し粘るが、ゴール前の決定的なチャンスでさえ栄GK小島の鉄壁の守りにゴールを割ることが出来ずタイムアップを迎えた。

栄は描いた筋書きとおりのゲームが出来たのではないだろうか、18年連続出場・優勝2回の実績は伊達ではない所を見せ、3年ぶりの優勝にまっしぐらである。津田は、個人技能の高い選手も多いが、栄のペースに翻弄され組織的なまとまりが最後まで作れなかった。昨年引き続き3位決定戦に回ることとなるが、一つ上位をねらってほしい。

記録者

南部 健